



**Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム報告**  
**中米7カ国・キューバグループ**  
**テーマ：環境**

### 1. プログラム概要

Juntos!!対日理解促進交流プログラムの一環として、中米7か国およびキューバより大学生及び社会人計33名が、2月27日～3月7日（8泊9日）の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。滞在中は東京のみならず地方訪問等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じてそれぞれの本国を中心に对外発信を行いました。また、帰国前の報告会では訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

### 2. 参加国・人数

エルサルバドル5名、キューバ7名、グアテマラ3名、コスタリカ5名、ドミニカ共和国3名、ニカラグア3名、パナマ4名、ホンジュラス3名（50音順）、計33名  
（若手政府関係者、ジャーナリスト、学生等）

### 3. 訪問地

東京都、広島県、京都府、滋賀県

### 4. 日程

2月27日（月）

成田国際空港より入国

2月28日（火）

武井俊輔外務大臣政務官表敬

独立行政法人国際協力機構（JICA）研究所 シニア・リサーチ・アドバイザー

細野昭雄氏講演「日本の中南米への貢献—ジャパン・モデル—」

来日オリエンテーション

環境省ブリーフィング「日本の環境政策について」

総合環境政策局環境計画課課長補佐 中村 隆之氏講義「環境基本計画（概要、進捗状況）」

環境省地球環境局総務課低炭素社会推進室環境専門員 荒川 涼氏講義「日本の気候変動対策（NDCの実施等）」

3月1日（水）

石坂産業株式会社視察

（産業廃棄物の減量化・再資源化を行う全天候型独立総合プラント）

有明清掃工場視察

東京都から広島県へ移動（飛行機）

3月2日（木）

宮島・厳島神社視察

原爆ドーム・平和記念公園・広島平和記念資料館視察、語り部講和

広島県から京都府へ移動（新幹線）

3月3日（金）

清水寺視察、界限散策

資源循環型の地域モデル「菜の花エコプロジェクト」視察

（NPO 法人 愛のまちエコ倶楽部が実施する、廃食油を利用してバイオディーゼル燃料を精製する再生可能エネルギー関連プロジェクト）

3月4日（土）

滋賀県立琵琶湖博物館視察

座学による講義「琵琶湖の環境と琵琶湖博物館が持つ意義」

展示を用いた講義「世界の古代湖や環境問題に対する人々の関わり」

針江生水の郷「かばた」視察

川島酒造株式会社視察（地域産業視察）

民宿体験

3月5日（日）

滋賀県から京都府へ移動（バス）

京都府から都内への移動（新幹線）

TOYOTA MEGA WEB 視察（水素自動車等エコカー視察）

ワークショップ

3月6日（月）

トヨタ自動車株式会社東京本社視察（環境への取組等の説明）

報告会

3月7日（火）

成田国際空港より出国

## 5. プログラム記録写真



2/28 武井俊輔外務大臣政務官表敬



3/1 有明清掃工場視察



3/2 宮島・厳島神社視察



3/2 原爆ドーム・平和記念公園・広島平和記念資料館視察



3/3 清水寺視察



3/3 「菜の花エコプロジェクト」視察

	
<p>3/4 滋賀県立琵琶湖博物館視察</p>	<p>3/4 針江生水の郷「かばた」視察</p>
	
<p>3/4 川島酒造株式会社視察</p>	<p>3/4 民宿体験、書道体験</p>

## 6. 参加者の感想（抜粋）

### ◆ グアテマラ 社会人

日本の経済協力は、長期的視野に立った良好な関係を構築し、それが人材育成を支えていること、また技術革新における投資の透明性に基づいていることが分かり、大いに刺激を受けました。それによって私たちがお互いの国々に堅固な架け橋を築き、共に歩いていく道を作ることができるのだと思います。

### ◆ コスタリカ 社会人

広島への訪問、核兵器の強大なリスクについて考え、街が破壊された事実を直接見聞することは、非常に衝撃的なことでした。同時に、日本国民の立ち直る能力に感嘆しました。今回の訪問を経験したからには、平和を伝える民間大使として、核兵器に反対していく責務があると考えています。



### ◆ エルサルバドル 学生

「Juntos!!」プログラムでの訪日は明らかに私の人生を変えました。文化、歴史、技術、自然資源の保全と適正な利用など、多くのことを学びました。特に印象に残ったのは、日本の社会を間近に知り、教育、技術、リサイクルの文化推進などにおける発展を感じることができたことです。これによって、日本は過去との繋がりを保つと同時に、世界に名だたる非常に発展した社会であることがわかりました。民宿での体験で「日本のおもてなし」を肌で感じ、善意の日本人をより深く知ることができたと思います。日本語を学びたいという意欲が更に高まりました。

## 7. 参加者の対外発信

	
<p>京都での湯豆腐&amp;豚しゃぶ体験 (Facebook)</p>	<p>様々な体験と記憶を胸にそれぞれ帰国の途に。日本国民、日本政府へ心より御礼申し上げます。(Facebook)</p>

## 8. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>アクション・プランの発表 1 (テーマ：協力)</p> <p>交流で学んだ知識を SNS、メディア、公共機関ネットワークを通じて普及し、自分の周囲、職場、地域で実践・波及する。中米・カリブ諸国で持続可能な開発の文化を推進し、環境分野における日本との協力関係を強化する。日本の協力のもとプロジェクトを立ち上げる。持続可能な農村開発の実現に向け、政府の国際協力担当機関に働きかける。</p>	<p>アクション・プランの発表 2 (テーマ：文化交流・国家間交流)</p> <p>日本語を通じて日本に関する一般的知識を普及するためのカリキュラムを作る。中米・カリブ諸国に駐在する日本の外交使節団とのコミュニケーション活性化のための活動ネットワークを形成する。</p>